

会員になると？

- 年4回（4号分）発行される機関誌『読書科学』がお手元に届きます
- 『読書科学』に論文や実践報告、資料を投稿することができます
- 年1回（8～9月頃）開催される研究大会にて発表できます

*その他の会員特典はホームページの「入会案内」をご覧ください

どんな研究や実践が発表できるの？

狭義の読書活動のみならず、読む・書くといった活動全般、言語教育研究、リテラシー研究、図書館・書店など読むことを支える環境に関する研究・実践など、多くの領域を対象としています。

- 言語教育（国語教育、日本語教育、英語教育等）
- 言語心理学、文章心理学、認知神経科学、認知科学・図書館情報学
- 言語に関する教育工学
- 教育におけるICT活用
- 視覚障害者の読みに関する研究
- 書籍の出版・流通に関する研究...など

入るための資格は？

どなたでもご入会いただけます！推薦なども必要ありません！

会費は？

年会費は9,000円です。入会費は必要ありません。

『読書科学』は通年で発行しており、いつでも投稿可能です。また、投稿してから1ヶ月足らずで査読結果が届く仕組みを構築しており、学校教員や司書・図書館員の皆さまなど、現場の皆さんにとって投稿のしやすい査読誌であることを自負しています。

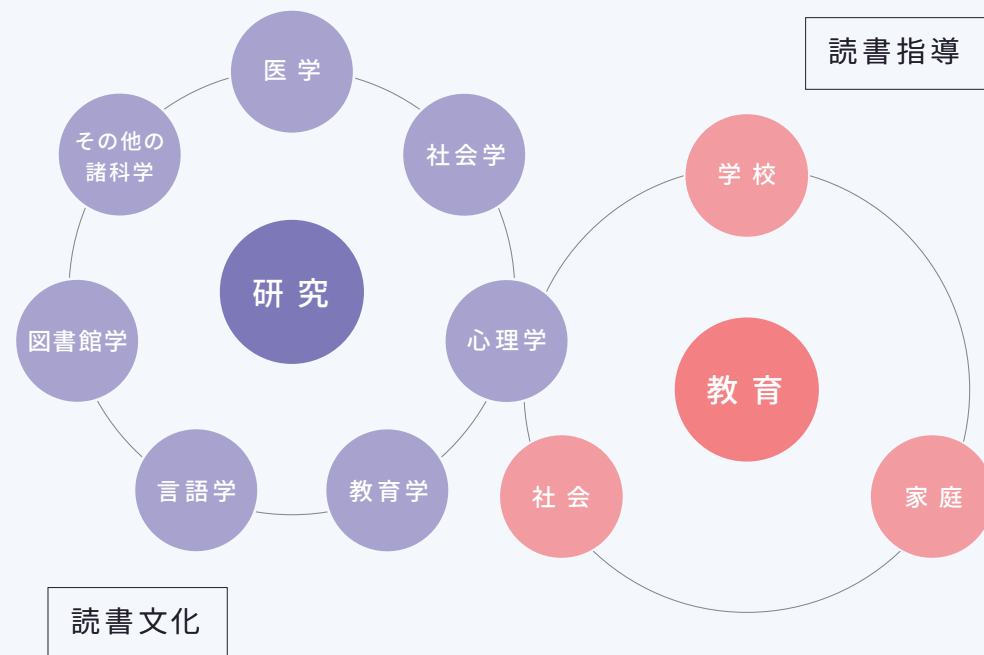
ぜひ、ご自身の研究・実践の成果発表の場としてご活用ください！

日本読書学会

The Japan Reading Association

日本読書学会は「読み（reading）」に関する研究を通して、研究者、教育の実践者などの活動と学術交流を支える組織です。

「読み」に関わるさまざまな学問と学校・家庭・社会における教育・学習に関わる人々が提携協力して総合的に研究を進めることで、読書文化の発達ならびに読書指導の進歩に寄与することを目指しています。



機関誌『読書科学』（年4号）

- 年4回（4号分）発行
 - 投稿は随時受付なので、いつでも投稿可能
 - 掲載記事はJ-stage上で公開
 - 第一著者が会員であればどなたでも投稿可能
- 複数の個人や団体がかわる共同研究や共同プロジェクトの成果も発表可能



オンラインで読むことができます！

1956年1巻1号～2007年50巻3・4号

<https://www.readingassoc.site/backnumber>



2008年51巻1号～

<https://www.jstage.jst.go.jp/browse/sor/-char/ja>



このような論文等が掲載されています！

- 望月正哉ほか(2021)「読者がもつ物語の認知的ジャンルの測定」
- 吉永安里(2021)「『おおきなかぶ』における幼小の指導の連続性:読みの環境構成と指導内容の観点から」
- 岡村幸代ほか(2020)「地域子育て支援における母親支援を志向した絵本の読み聞かせの可能性と課題」

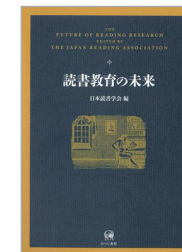
研究大会（年1回）

- 年1回 毎年8～9月頃に東京にて1日開催
- 第一著者が会員であればどなたでも発表可能
- 発表資料は1発表あたり10頁まで掲載可

日本読書学会60周年記念書籍『読書教育の未来』発刊

2019年7月に、日本読書学会設立60周年を記念し、「読書」にかかわる研究・実践の成果を発信するための書籍『読書教育の未来』を、ひつじ書房より発刊しました。

読書と発達、読むことの科学、読書と教育、社会生活と読書など、これまで教育心理学、国語科教育等の分野で示されてきた「読書」に関連する研究・実践の成果を幅広く取り上げるとともに、未来に向けて最新の研究動向や教育実践を様々な視点・論点から考察しています。



読書調査プロジェクト

1947年より実施されていた毎日新聞による「読書世論調査」が2020年度をもって終了しました。日本の成人の読書活動の動向についての記録が途絶えることになります。

こうした状況を受けて、本学会では成人を対象とする読書活動に関する調査プロジェクトを発足させました。

研究推進事業

2023年度より、会員間の交流や研究の活性化につなげられるような 研究行事の定例での企画実施や、図書館総合展へのポスター発表参加をはじめとした対外的な研究成果の発信を進めていきます。

この一環として、2024年2～3月頃に、読書に関する研究・教育に関するセミナー・講座を開催予定です。

2023年度研究セミナー（仮）

2024年2～3月開催（予定）

ホームページ <https://www.readingassoc.site>

問い合わせ先 info@readingassoc.site（日本読書学会事務局）